

ヤコブ

の手紙

3

「舌を制する者は  
悪をも制す」

ヤコブの手紙 3章 舌の管理

# アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 舌を制せよ 3章1~12節
- II. 上からの知恵を求めよ 3章13~18節
- III. まとめと適用  
実を結ぶのが本当の信仰



## 【ヤコブの手紙とは？】

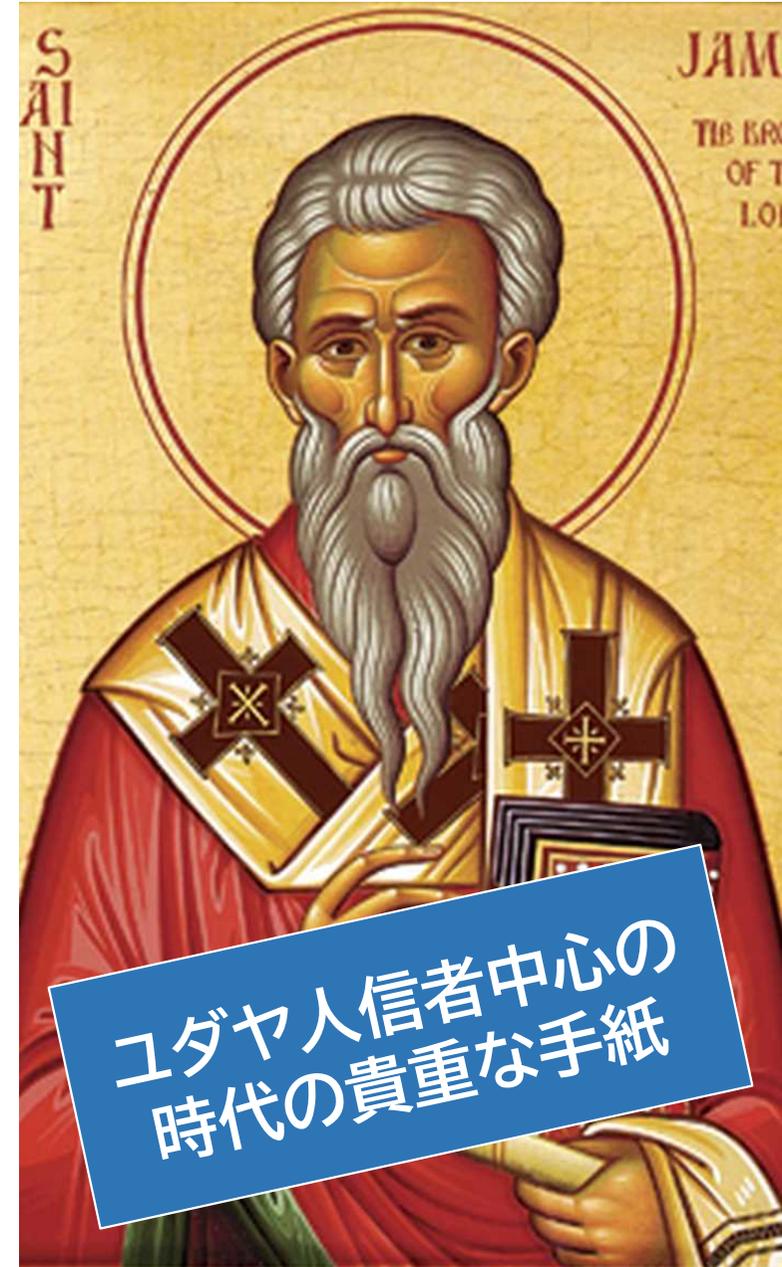
■ **著者** …イエスの実弟ヤコブ。

■ **年代** …45～49年頃。エルサレム会議前か。  
➔会議の内容に言及がない!!

■ **場所** …エルサレムか。

■ **内容・目的** …公に読まれた共同書簡。  
信仰と行いの一致を促す。

■ **対象** …**離散**のユダヤ人(ディアスポラ)。



ユダヤ人信者中心の  
時代の貴重な手紙

## 【ヤコブの手紙が書かれた時代背景】

■ イエスの昇天後、15～20年。

二度の大迫害により、散らされていった弟子たち。

★福音は、エルサレム → サマリア → 異邦人へ

■ この時代の教会のメンバーの中心は、ユダヤ人。

① 生粋のユダヤ人

② 離散のユダヤ人 (ディアスポラ)

➡ 海外生まれ。国際人。ギリシャ語が堪能。

熱心な人々は律法を遵守。エルサレムを巡礼。

■ 対象は、多数になっていた、② 離散のユダヤ人。

アンテオケなど、海外の有力な地域教会も誕生。

実質的な働きは、エルサレムからアンテオケへ移行。



## 【離散のユダヤ人とギリシャ文化の影響】

- アレンサンダー大王による支配(前333年)以降、  
ローマの支配(前63年)に至るまで、**ギリシャ文化の影響が拡大!**

### ■ ギリシャ文化の特徴

★ **多神教** …ギリシャ神話の神々。偶像礼拝。

★ **人間中心主義** …ギリシャ哲学。古代オリンピック。

★ **霊肉二元論** …肉体と精神を別々に捕らえる。  
精神は肉体より優れている。



聖書的価値観

- ギリシャ文化の影響は離散のメシアニックジューにも及んだ。

**教理的最大の問題は、メシアの受肉の否定!!**

# 【使徒の時代とヤコブの手紙】

イエスの昇天 1



聖霊降臨・ペンテコステ 2



【ユダヤ人伝道】エルサレム 2~6

聖霊降臨②

ステファノの殉教・大迫害 7



【サマリア伝道】



聖霊降臨③

サウロの回心 9



【異邦人伝道】



聖霊降臨④

ヤコブの殉教・迫害 12

伝道旅行① 13~14

エルサレム使徒会議 15

伝道旅行② 15~18

伝道旅行③ 18~20

パウロの逮捕・監禁 21~26

パウロのローマへの護送・難破 27

【ローマ伝道】 28

オーストラリアへ

パウロ (15年間)

ペテロ (15年間)

## 【ディスペンセーション(時代)の移行期にあるヤコブ書】

### ■ 律法の時代から、教会時代へ

➡ 成し遂げられたメシアの贖い

➡ 異邦人に拓かれた福音宣教の扉

(ペテロに示された律法の世界規定からの自由)

■ 律法はメシアによって完遂され、役目を終えた。

★ 教会時代に従うべきは、

**自由をもたらす完全な律法 = キリストの愛の律法。**

➡ 使徒たちが聖霊によって語り、記したものの。

■ しかし、多くの者は律法に縛られ、キリストの律法の理解も不完全。

一方では、**律法主義者**が跋扈。他方では**ギリシャ的放縦**が蔓延。

時代は変われど  
人々の心は  
追いついていない



I. 舌を制せよ ヤコブの手紙3章1～12節

## 【教師の責任】 ヤコブ3:1~2

私の兄弟たち\*、多くの人が教師になってはいけません。\* あなたがたが知っているように、私たち教師は、より厳しいさばきを受けます。

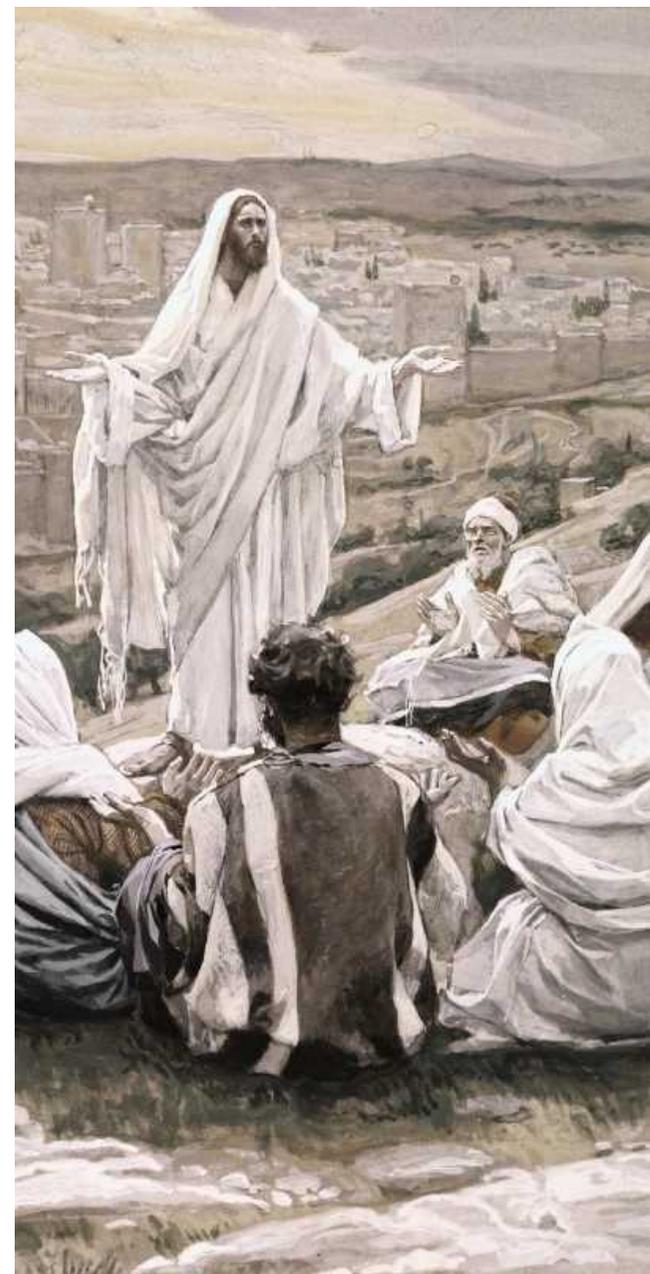
\*兄弟たち ➡ヤコブ書で話題の転換を示す語。

\*公の場で教える教師のこと。

➡未信者を教えるのは、すべての信者の義務。

■偽教師の裁き➡「大きな石臼を首にかけられて、海の深みに沈められる方がよい(マタ18:6)」

■信者の教師は、「キリストの御座の裁き」で、裁かれる。(Ⅱコリント3:10)



## 【人は過ちを犯す】 ヤコブ3:2

私たちはみな、多くの点で過ちを犯すからです。もし、**ことば**で過ちを犯さない人がいたら、その人はからだ全体も制御できる完全な人です。

■聖書の諸書が再三命じる、**舌(ことば)**の制御。

「詩34:13, 15 あなたの**舌**に悪口を言わせず**唇**に欺きを語らせるな。…【主】の目は正しい人たちの上であり主の耳は彼らの叫びに傾けられる。」

「箴 15:4 穏やかな**舌**はいのちの木。**舌**のねじれは霊の破れ。」

そんな人はいない!!



## 【口にはくつわを】 ヤコブ3:3

馬を御するためには、その口に**くつわ\***をはめれば、馬のからだ全体を思いどおりに動かすことができます。

\*くつわ …手綱をつけるため、馬にかませる金具。

➔旧約聖書でも度々、たとえに用いられる。

「詩 39:1 私は言った。私は自分の道に気をつけよう。私が舌で罪を犯さないように。口に**口輪**をはめておこう。悪しき者が私の前にいる間は。」

「箴 26:3 馬にはむち。ろばには**くつわ**。愚かな者の背中にはむち。」



旧約的たとえ

## 【船の舵】 ヤコブ3:4

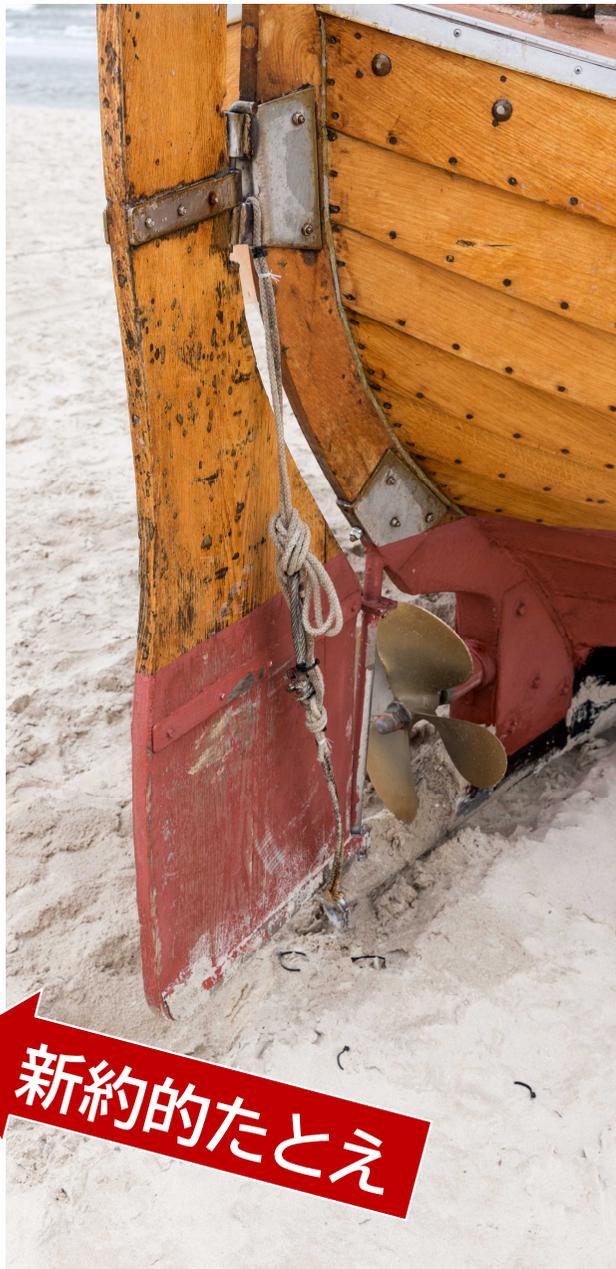
また船を見なさい。あのようによく大きくて、強風を受けていても、ごく小さい**舵\***によって、舵を取る人の思いどおりのところへ導かれます。

\*旧約聖書には、「舵」という言葉は出てこない。

➡牧畜民には無縁なもの。

■ローマ時代のディアスポラのユダヤ人にとって、船は身近。彼らを意識したたとえだと分かる。

■旧約的たとえと、新約的たとえ、たとえの用い方はハイブリッド。示す真理の本質は一つ。



新約的たとえ

## 【身を焦がす舌の災い】 ヤコブ3:5

同じように、**舌**も小さな器官ですが、大きなことを言って自慢します。見なさい。あのように小さな**火**が、あのように大きな森を**燃**やします。

「イザヤ5:23～24 彼らは賄賂のために、悪者を正しいと宣言し、その悪者から正しい者たちの正しさを遠ざける。それゆえ、**火の舌**が刈り株を焼き尽くし、枯れ草が**炎**の中に溶けゆくように、彼らの根は腐り、その花も、ちりのように舞い上がる。彼らが万軍の【主】のおしえをないがしろにし、イスラエルの聖なる方のことばを侮ったからだ。」



究極的には  
神の火の舌が  
悪者を  
焼き尽くす

## 【ゲヘナ】 ヤコブ3:6

舌は火です。不義の世界です。舌は私たちの諸器官の中にあってからだ全体を汚し、人生の車輪を燃やして、**ゲヘナ**の火によって焼かれます。

\* **ゲヘナ…永遠の滅びの場。ベン・ヒノムが語源**

「マルコ9:48 **ゲヘナ**では、彼らを食らううじ虫が尽きることがなく、火も消えることはありません。」

■ **世の終わり、裁きを行う神の姿が重なる。**

「ダニエル 7:9～10 その衣は雪のように白く、頭髪は混じりけのない羊の毛のよう。御座は火の炎、その車輪は燃える火で、火の流れがこの方の前から出ていた。」

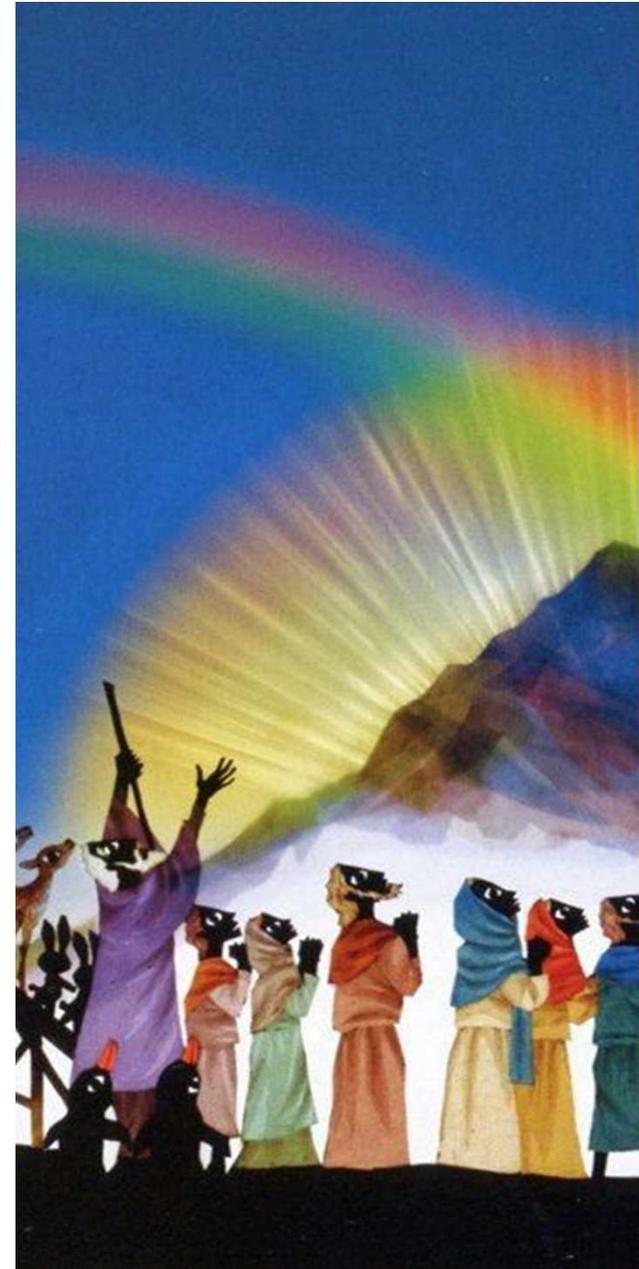


## 【変わらない舌の罪】 ヤコブ3:7~8

どのような種類の獣も鳥も、這うものも海の生き物も、人類によって制することができ、すでに制せられています。**\*** しかし、舌を制することができる人は、だれもいません。舌は休むことのない悪であり、死の毒で満ちています。

**\*** 動物への支配権は、大洪水後もノア契約で存続。

■ 舌を御せない人の罪の性質は何も変わらない。



## 【舌による賛美と呪い】 ヤコブ3:9~10

私たちは、**舌**で、主であり父である方をほめたたえ、  
同じ**舌**で、神の似姿に造られた人間を呪います。

同じ**口**から賛美と呪いが出て来るのです。私の兄  
弟たち、そのようなことが、あってはなりません。

箴言15:4 穏やかな**舌**はいのちの木。**舌**のねじれは  
霊の破れ。

箴言15:2 知恵のある者の**舌**は知識をうまく用い、  
愚かな者の**口**は愚かさを吐き出す。

箴言12:18 軽率に**話**して人を剣で刺すような者が  
いる。しかし、知恵のある人の**舌**は人を癒やす。



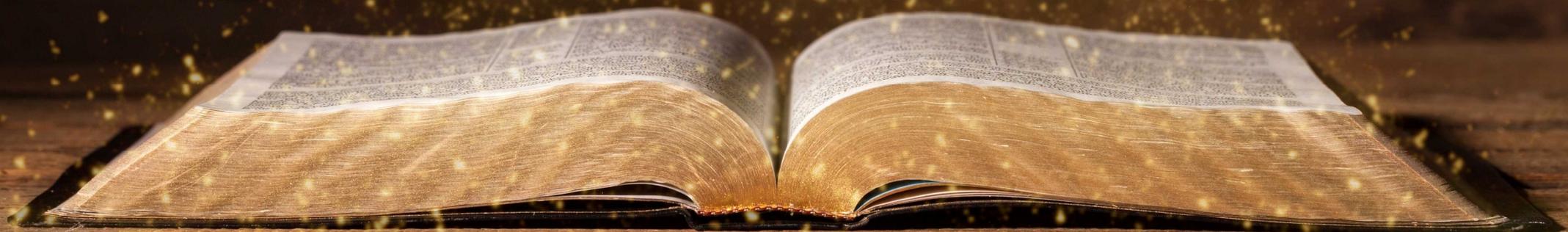
## 【信仰の選択は二つに一つ】 ヤコブ3:11~12

泉が、甘い水と苦い水を同じ穴から湧き出させるでしょうか。私の兄弟たち。いちじくの木がオリーブの実をならせたり、ぶどうの木がいちじくの実をならせたりすることができるでしょうか。塩水も甘い水を出すことはできません。

Ⅱコリ1:19 私たち、すなわち、私とシルワノとテモテが、あなたがたの間で宣べ伝えた神の子キリスト・イエスは、「はい」と同時に「いいえ」であるような方ではありません。この方においては「はい」だけがあるのです。



## Ⅱ. 上からの知恵を求めよ 3章13~18節



## 【知恵は行いによって示される】 ヤコブ3:13

あなたがたのうちで、知恵があり、分別のある人はだれでしょうか。その人はその知恵にふさわしい柔和な**行い**を、立派な生き方によって示しなさい。

■詩15:2,5 全き者として歩み 義を**行い** 心の中の真実を語る人。…このように**行う**人は決して揺るがされない。

■箴21:8 罪人の道はねじれている。しかし、純粋な人の**行い**は真っ直ぐだ。

■箴20:11 幼子でさえ、何かするとき、その**行い**が純粋かどうか、真っ直ぐかどうかを識別する。



## 【問われる心の内面】 ヤコブ3:14~15

しかし、もしあなたがたの心の中に、苦々しいねたみや利己的な思いがあるなら、自慢したり、真理に逆らって偽ったりするのはやめなさい。

そのような知恵は上から来たものではなく、地上のもの、肉的で悪魔的なものです。

■箴24:12 あなたが「そのことを知らなかった」と言っても、人の心を評価する方は、それを見抜いておられないだろうか。あなたのたましいを見守る方は、それをご存じないだろうか。人の行いに応じて、報いをされないだろうか。

自慢や偽り…  
あなたの行いは  
あなたの心の反映



## 【邪悪な行いの根】 ヤコブ3:16

ねたみや利己的な思いのあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行いがあるからです。

■詩106:39 このように彼らはその**行い**によって自分を汚し そのわざによって姦淫を犯した。

→偶像礼拝、神の背きが捕囚を招いた。

■箴1:31 それで、彼らは自分の**行い**の実を食らい、自分が企んだことで腹を満たす。

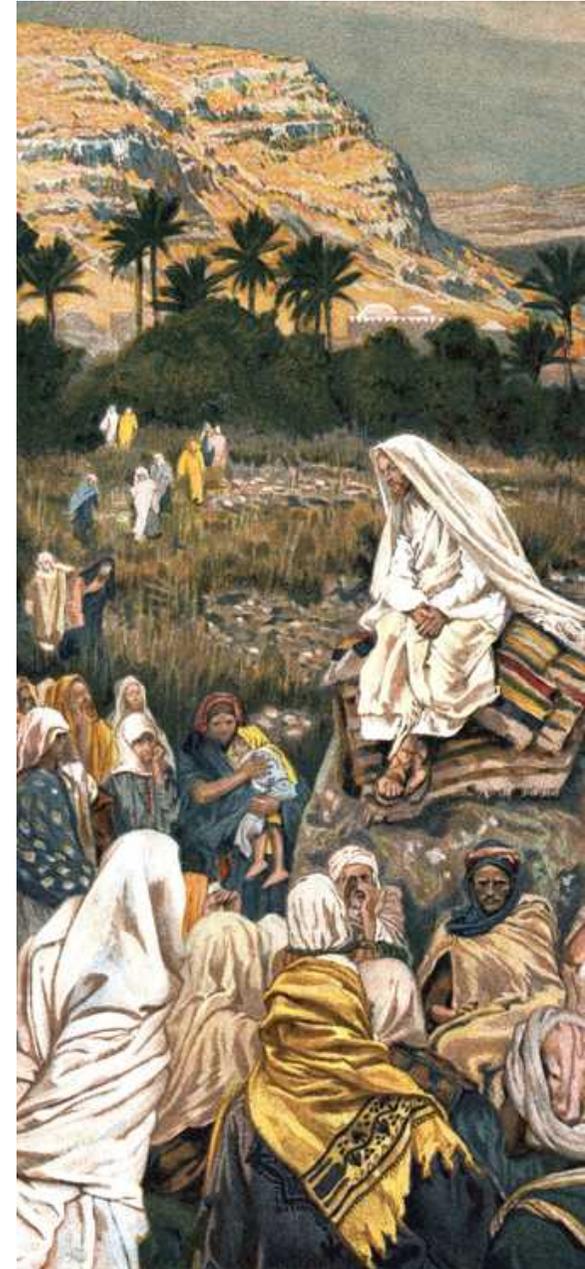
■嫉妬、利己心が、人の悪の根っこ。



## 【上からの知恵】 ヤコブ3:17

しかし、上からの知恵は、まず第一に清いものです。それから、平和で、優しく、協調性があり、あわれみと良い実に満ち、偏見がなく、偽善もありません。

- 典型的な対句法の表現。極めてヘブル的。聖書的。
  - ➡ 一つの真理を多角的に表現し、理解を深める。
- 第一に求められるのは、罪と隔離された神の清さ。
  - ➡ 何より信仰が土台にあり、信仰に生きる人は、自ずとこれらの実を結ぶ。



## 【義の実を結ばせる種】 ヤコブ3:18

義の実を結ばせる種は、**平和**をつくる人々によって**平和**のうちに蒔かれるのです。

- 種とは、神の命の御言葉。
- 平和の土台は、神との和解。神との平和。  
福音を信じて、はじめて据えられるもの。
- 信仰者が、その信仰を神によって育まれ、  
証しを立て、福音を告げる者とされていく。





### Ⅲ. まとめと適用

実を結ぶのが本当の信仰

## 【ヤコブ書の背景にある問題から考える】

■ギリシャ的世的価値観に染まった、偽善的な人々。

➡人の二面性を肯定。開き直り。心で信じていればいいとうそぶく。  
信仰的な言葉は口先だけで、行いは裏腹。一向に実を結ばない。

■これらが問題なのは、**信仰的偽善こそ、最悪の罪をもたらす**から。

➡福音書で最も罪が重いのは、裏切り者の弟子のユダ。  
弟子たちの誰も疑わないほどに熱心な信仰者を振る舞っていた。

■神への欺きを生むのが、舌。

➡実体の伴わない信仰的言葉や祈り、賛美ほど罪深いものはない。  
偽りの信仰生活は、罪を積み上げていくだけ。

## 【当たり前前のことを当たり前前】

- ヤコブ書が記しているのは、ユダヤ人であれば当たり前前のこと。  
➡ 心と体は一つ。信じれば行いに現れるのが当然。
- 当たり前前のことを当たり前前に伝えるのがヤコブ書。ごくシンプル。  
ユダヤ的伝統的「くつわ」、ディアスポラ向けの「舵」。  
様々なたとえを用いて伝える本質は、まったく同じ一つのこと。
- 信仰者に求められるのは、「はい」と応えて実行する。それだけのこと。
- シンプルなヤコブ書を、ややこしく感じさせる、  
➡それがまさしく、人の罪の本質に他ならない。

## 【上からの知恵を得るために】

- 福音を信じること。 ➡信じて救われ、義と認められ、神と和解する。
- 神を信頼し続けていくこと。 ➡信頼して委ねることも一つの行い。  
主に委ねれば、聖霊が私を用いて働いてくださる。  
自分の意思では決意しようのないことに、押し出してくださる。
- 日々、主の使命に生きること。 ➡人々に福音を告げること。  
クリスチャンの使命である福音宣教は、明確な一つの行い。
- 信仰を行いもって歩む者に、神の知恵は与えられる。  
道が開かれ、出会いが与えられ、おどろくべき実がもたらされる。

## 【どうして行いが重要か？ 大前提を押さえよう】

申命記6:22～23 【主】は私たちの目の前で、エジプトに対し、ファラオとその全家族に対して、大きくて害をもたらすしるしと不思議を**行い**、私たちをそこから導き出された。

- イスラエル民族の歴史は、**神の行い**によって始まった。  
➡ アブラハムへの約束を守り、イスラエルを奴隷から救い出された。
- 聖書の神は、**行いの神**である。約束を絶対に守る方である。
- 主は、行われた。だから私たちも行うことを求められている。

## 【聖書の大原則に基づく信仰者の使命】

■ 神は、約束通り、行いをもって救いの御業を成し遂げられた。

主イエス・キリストは、私の罪のため十字架にかけられ、死んで葬られ、三日目に死を打ち破って復活された。

■ 信仰者に求められる第一の使命は福音の宣言。

「ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。」

マタイ28:19～20

➡ 主イエスの大宣教命令は、明確な行い

## 【あなたの信仰には、使命に沿った行いがあるか？】

■主が第一に問われるのは、一つのこと。

「で、誰に伝えたのか？」と。

■行いの伴わない信仰生活は、嘘に偽りを重ねているだけ。

■福音を信じる決心そのものが、主の目に適う大きな行い。

良い知らせを聞いて信じた人は、必ずそれを誰かに伝える。

福音宣教を行う人には、必ず御霊が働き、実を結ばせてくださる。

誰かが信じる瞬間に立ち会うほどの驚き、喜びは他にない。

**行い、実を結び、福音宣教の醍醐味を味わって行こう！！**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

この福音(ふくいん)を福音として、

人々に よろこびをもって 伝(つた)えていくことができますように。

主イエスの命令(めいれい)に従(したが)い、

ゆたかな実(み)を 結(むす)ぶ者(もの)としてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」